

# 授業における防災・減災教育

仙台市立桂小学校研究同人

## I はじめに

本校は、平成24年度より生活科・総合的な学習の時間の指導計画の見直しを図り、地域を学習材とした教材開発に取り組んできた。

また、新たな学校防災教育推進モデル校の指定を受け、実践を積み重ねてきている。授業における防災・減災教育を実践するに当たり、次の工夫を行いながら年間指導計画を作成した。

- (1) 防災対応力の基礎的な構成要素である「知識」・「技能」・「態度」がバランス良く各教科・領域で育まれるよう指導計画に位置付ける。
- (2) 行事や教科・領域の学習内容に合わせて、活用できる副読本の学習項目を各学年の系統性を考えながら位置付ける。
- (3) 教科においては、教科本来の指導を基本としながら、防災に関連する内容を含む単元に防災学習を付加する形で計画に位置付け、年間を通して継続した指導が行えるようにする。
- (4) 異学年交流の場であるたてわり活動における防災学習を、指導計画に位置付ける。

さらに、第5学年の総合的な学習の時間においても、「防災」を学習課題として扱うこととした。第5学年での学びを生かして第6学年時には学校の防災リーダーとして活躍してほしいと考えたからである。

そして、全校児童が年間を通して継続して防災学習に取り組んだり、自ら進んで学ぶ活動を行ったりすることにより、災害時に自助・共助それぞれの行動を取ることができるようになってほしいと考えた。

## II 実践の実際

### 1 第5学年 総合的な学習の時間における取組

- (1) 単元名 「つくろう！安心な町 桂」
- (2) 単元目標

「安心な町 桂」にするために、地域との関わりを深めることを通して、自分たちにできる活動を考え地域の一人として実践しようとする。

### (3) 指導計画

第1次「安心な町 桂」を自分たちでつくるためにみんなの願いを知ろう

- ・「安心な町 桂」とはどんな町なのか、自分の考えを明確にしている。 (6時間)
- ・安心な町について、住民の思いや考えを調べている。 (2時間)
- ・桂を安心な町にするために、自分たちができていることを考えている。 (7時間)
- ・収集した情報を整理・分析し、自分たちができていることを具体的に考えている。 (4時間)
- ・「安心な町 桂」について自分たちが取り組むことを計画している。 (10時間)

第2次「安心な町 桂」を自分たちでつくろう

- ・自分たちが考えた活動を実践している。
- ・「安心な町 桂」について自分たちの考えを伝え、地域の方の意見を聞くことで、願いや思いを理解している。 (5時間)
- ・実践を振り返り、更に「安心な町 桂」になるための活動の計画を立てる。 (3時間)
- ・自分たちが考えた活動を実践している。 (4時間)
- ・「安心な町 桂」についての提案をし、地域との関わりを深めている。 (5時間)

### (4) 授業実践

#### ①「安心な町 桂」について話し合う活動の設定

「安心な町 桂」とは、日頃から地域の関わりが深いこと、災害時の対応が明確になっていることだと児童の考えがまとまった。この「安心な町 桂」が、自分たちが目指すゴールだということを意識付け、その後の学習の見通しを持たせてきた。

#### ②地域の実態把握

地域住民の考えを把握するために保護者から意見を聞いたり、昨年度のアンケート



トを活用したりして分析を行った。

### ③桂地区防災訓練への参加

参加している地域の方にインタビューした内容を生かして、自分たちの課題設定へとつなげた。

### ④児童自らが考えた課題

多くの児童が考えたことは、ポスターを描く、声掛けをするなどこれまでも取り組んできた内容がほとんどであった。そこで、今回は児童が出した意見の中で一番やってみたいと思っているが、実現は難しいと考えている「ふれあいカフェ」に学級全体で取り組みたいと考えた。取組のねらいとしては、

- ア. 同じような活動しか考えられなかった子供たちの意欲を高める。
- イ. 目的を明確にすることや具体的に計画を立てることの大切さに気付かせる。
- ウ. 活動することを通して自らの「桂」という地域への思いを深めながら、地域の方の願いや思いに気付かせる。

こととした。

### ⑤活動の実践

活動は複数回計画し、一度目の活動から学んだことを生かして、さらに「安心な町 桂」にするための活動を実践する。



### ⑥地域への発信

実践から学んだ成果を地域の方に発信し、活動のまとめを行う。

## 2 年間指導計画に沿った継続した取組

### (1) 学級活動での実践例

#### ①単元名 自然災害から身を守るために

#### ②本時のねらい

自然災害が起きた場合、どのようにして身を守るのか、また、どのようにして避難するのかを考え、安全な避難行動が取れるようにする。

#### ③本時の指導

本授業は、学校・地域・家庭との防災ネットワーク「人と関わり、自信を持って生活できる子供たちへの防災教育を目指して」の実践授業公開研究会で公開されたものである。そして、副読本の活用をしながら、各教科・領域における防災・減災の授業実践の充実を図り、授業公開を行うという本校で取り組んでいる新たな防災教育の重点取組事項の一つの実践例である。

#### 学習過程

主な学習活動	指導上の留意点・評価
1 本時のめあてを知る。	1 新防災教育副読本 p 32, 33 を活用する。
2 自然災害が起きた時、絵の中の危険箇所を考え、ワークシートに書く。 ○絵の中の危ないところ→理由 ・川や用水路 →落ちてしまうかもしれないから →雨で水が増えたり、流れが急に変わったり、速くなったりするから ・橋→雨で水の量や速さが変わって流されてしまうかもしれないから ・高い木→雷の時、落ちてくるかもしれないから	2 ワークシートを配布し、絵の中に書き込みながら考えられるようにする。 絵を拡大印刷したものを黒板に掲示し、実際に書き込みながら書き方を説明する。 机間指導しながら、理由について着目し、災害ごとに様々な視点から考え、危険箇所を見付けられるように助言する。
3 絵の中の危険箇所について話し合う。	3 教師は、大雨、大雪、雷、竜巻などの自然災害が起きた場合のそれぞれの危険箇所について意図的に指名し、意見をまとめる。
4 DVD を視聴し、災害から身を守るための行動を学ぶ。 ○大雨のとき ○大雪のとき ○雷のとき ○竜巻のとき	4 それぞれの自然災害について、いつで、どこでも、どこにいても起こりうるものだという認識を持たせる。
5 それぞれの自然災害時の行動を確認する。 ○雨が強く降ったら→川や用水路から離れる ○雷が聞こえたら→自転車から降りて、建物に入る ○竜巻が来たと思ったら→コンクリート等の頑丈な建物に入る	5 DVD の内容をふり返し、板書してまとめる。「自分の命を守ること」であることを確認する。
6 様々な場所にいる時に自然災害が起きた場合の行動を話し合う。 ○桂にいたら→地震、大雨、雷、竜巻に注意する ○川の近くにいたら→特に大雨や津波に注意する ○海の近くにいたら→特に大雨や津波に注意する ○山にいたら→地震や大雨によるがけ崩れや土石流に注意する。(大雪の際は雪崩)	6 場所によって行動を変えることや、事前により判断することの大切さに気付かせる。
7 自然災害から身を守るために大切なことを確認する。 ・天気の変化に注意する ・様々な場所での行動を考えておく ・天気予報や土砂災害警報などの情報を集めておく ・時には中止や切り上げて避難する決断も大事 ・学校の避難訓練にもしっかりと取り組む	7 学習内容をふまえて、あわてず落ち着いて行動したり、「～かもしれない。」と周囲の状況を予測して行動したりすることなど、自分が具体的に実行することをワークシートに書かせる。 自助だけでなく、共助の考えにつながる行動を書いたものを紹介する。

検討会では、「防災教育の年間指導時数について」「危険箇所マップの作成方法について」「他教科での指導で防災を扱うときの留意点」などが話題となった。

このような取組を行っていくことによって、年間指導計画にその都度修正を加え、誰がどの学年を担当しても継続した取組を行うことができ、子供たちも系統立てられた学習を進めていくことができるようになると考えている。

## III 終わりに

継続した取組により、学校生活の中ではもちろんのこと、登下校時など地域の中での防災・減災について考えられる児童が増えてきていると感じている。特に、たてわり活動と連携して防災学習に取り組むことで、学びが次の年にも引き継がれている。それは、第5学年で学びを深めた子供たちが、リーダーとして活躍していることも要因の一つである。

また、副読本を活用しながら、年間指導計画で系統立てられた学習に取り組んできていることでも成果を上げている。

今後も実践を積み重ねながら年間指導計画をその都度見直し、継続した防災・減災教育を展開していきたいと考えている。